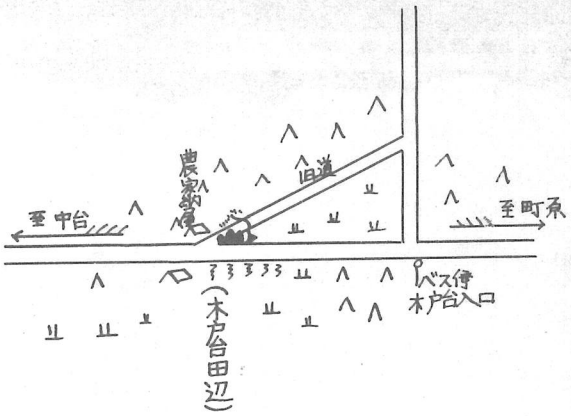
横芝の碑（その九）

谷部田のみちしるべ

昔は観光旅行のことを物見遊山と呼んでいました。この辺りでは三里塚等に日帰りで花見に出かける程度で、それ以上の旅行は大抵信仰を主とした伊勢参宮とか御岳山詣などでした。現在の様に交通機関も発達していなかった頃のことですからその旅はなかなか大変なもので、これが無事に済むと自分が信仰する寺や社の境内若しくは村の入口等に参詣記念碑を建てたりしたものです。その中に「折角の神信心の記念なのだから、何か人のためになるようにしたい」というので、この碑に道しるべを刻んで村境や道端に建てる人達もでてきました。永い旅の疲れに、ふと見付けた道端の碑に刻まれた文字は「もうすぐ銚子だ」「ようやく横芝へ着いた」等と人々をどんなにか慰め、また元気付けたか分りません。時には何か想い出の場所となって心に残ったかもしれません。そうした碑も、時代の変遷によって村落の形や道筋が変るのに連れて碑の建っていた道が裏通りになっていたり、拡張された道路の端に倒れて風雨に曝された果てには埋もれたりして、次第に姿を消してしまい極く稀にしか見かけることができません。

ところが、木戸台谷部田の県道沿には天保十一年、明治二十八年、明治四十四年にそれぞれ建てられた道しるべの碑がそのまま残っているのです。木戸台入口から中台方面へ約五十メートル先の右手に桜の古木がありますが、その根元に建っているのです。元此所が木戸台の入口であったということですが荒れるに任せて生い繁る笹藪の影に誰れにも顧みられずひっそりとたたずむ様に見えるその碑の字体や標示の変り方にも時代の変遷がまざまざと感じられてきます。

写真の中央の低い碑が天保年間のもので、正面右に天下泰平、丸奉納西国三十三所供養塔、天保十一年八月建之、東　さかた、よこしば、ちようし、西志ば山、なりた、さくら、北　きどの台、たこ、中むら、さわら、（中むらというのは八日市場の附近の地名だということです。左手に台座だけ見えている碑には、正面、奉霊供養碑　明治二十八年乙未七月、東　さかた、よこしば、九十九里道、西志ば山、なり田、東京方面、北、牛尾、たこ、佐原（天保の銚子と佐倉が消えて九十九里道、東京方面という文字が出てきています）中央に見える碑には、正面、日光信濃拝礼紀念碑、明治四十四年三月建、東、坂田、横芝道、西、芝山、成田道、北　木戸台、牛尾、船越、多古道（総て漢字で刻まれています。九十九里道、東京方面、佐原等の文字が消え、船越が出て来ています）



本稿取材にあたり、木戸台平野栄次郎氏のご協力をいただきました。

（給食センター小沢所長寄稿）

善行の老人

きれいな遊園地で思う存分子供達を遊ばせてやろうと、月に二回、遊園地の掃除をしている奇特な方がいます。

この善行の主は、古川に住む鈴木昇さん（79才）です。この善意は、部落民や子供達に大変喜こばれており、部落では、社会福祉協議会に申し出て感謝状をもらうことにしています。

たばこは
町内で買いましょう

たばこ20本で約15円が
横芝町の収入になります

世界の願い
交通安全

交通三悪絶滅